

---

○議長（阿部真之助） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を継続いたします。今林ひであき議員。

436○21 番（今林ひであき）登壇 私はスポーツ環境の充実について質問いたします。

今回、ラグビーワールドカップがここ福岡市でも開催されたこともあり、これを機会に見るスポーツから、憩い、趣味、健康づくりのスポーツ、そして、本格的なトップレベルの活動に至るまでの分野において課題を見つけて質問してまいります。スポーツについては、今回、多くの議員が質問され、重複するところもあり、なるべく要領よく質問してまいります。

まずは、スポーツの位置づけについてです。

国のスポーツ基本法のことは昨日もあったので、要約だけさせてもらいます。スポーツを通じて、幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利であり、中略、その機会が確保されなければならないとなっています。つまりスポーツ環境の充実は推進されるべきです。しかし、現実はこの分野に余り目が向いていないと思います。なぜなら、この分野は文化と同様に、行政サービスの中で最初に優先される生活必需の行政需要ではないため、どうしてもおくれがちです。私は健康、憩いという役割を果たすスポーツは、文化とあわせ本市が究極に目指すものではないかと考えております。

そこでまず、お尋ねいたします。

スポーツする場や機会が身近にあると感じる市民の割合は一体どのくらいおられるのか、教えてください。

次の本市でのスポーツの位置づけについて、福岡市の基本計画及び福岡市のスポーツ振

興計画についての質問は、重複しますので、割愛します。

次に、具体的にラグビーワールドカップの福岡開催について質問いたします。

私は福岡開催の総括と、もし課題があるなら、その課題の克服を行うべきだと思いません。それは次のスポーツ大会を成功に導くステップにもなるからです。大会の全体を見れば、経済効果は4,372億円、チケット販売約18万枚、そのうち約3割は海外からの観戦客と言われ、世界各国からも日本開催はおおむね成功と評価されています。では、福岡ではどうだったのでしょうか。

そこで、お尋ねいたします。

ラグビーワールドカップ福岡開催の成果と、もし課題が見つかっておれば、それを教えてください。

私なりにワールドカップを実際に目の前で見て思ったことを述べていきます。

まずは交通アクセスです。

市の捉え方と相違が少しあるかもしれません。感じたことを述べていきます。私は試合開始の2時間前に空港駅に着きました。会場に向かうため、シャトルバスを利用しようと思いました。30分待ちとのアナウンスがされていました。そのため、徒歩にしました。また、帰りのシャトルバスも長い時間来なかったとの話も聞きました。そのため、徒歩での移動者が思ったよりも多くなり、周辺の住民の方々にも迷惑がかかったと聞いております。パーク・アンド・バスライドも行ったようですが、目に見えた効果があったのか、よくわかりませんでした。毎回言われる交通アクセスの課題については、根本的な解決が必要なのかもしれません。

次に、一生に一度と言われるめったにないこのような国際大会を、多くの方に直接スタジアムで観戦していただきたいと考えておりました。特に子どもたちにはじかに見て触れることにより何かを感じてもらいたいとの思いから、小中高生の授業としての観戦ができるようにと質問してまいりました。

そこで、お尋ねいたします。

子どもたちの観戦はうまくいったのか、特に市立の小中学校の子どもたちはどの程度観戦できたのか、お尋ねいたします。

私はこのような国際大会を通して、見て楽しむ、一流に触れる、その感動が市民の健康増進、意欲につながるものだと思います。このことを風化させず、見るスポーツをするスポーツにつなげ、さらに、するスポーツが高じて人に見せるようになるトップレベルのスポーツに至る循環になればよいと思っています。

そこでまず、見るからするにつなげるためにどうしたらいいのか、個々にお尋ねしていきます。

まずは見るスポーツについて、見るスポーツといえば、ワールドカップのように成人のトップレベルの分野が主になると思います。プロスポーツで気になるところがあります。本市にはプロスポーツとして、野球、サッカー、バスケットボールなどがあります。この中で、本市が本格的に手をかけ支援しているのはプロサッカーだけだと思います。プロサッカーへの本市の支援については、市民 50 万人の署名とともに、私たち市議会の招致決議などがあり、官民一体となって静岡県の藤枝ブルックスを誘致した経緯があるからだと思います。

そこで、お尋ねいたします。

プロサッカーに対する市の人的支援及び物的支援等、過去3年の決算額及びその内容を教えてください。特に平成30年度について、業務委託の名目で支出している市民応援デー、市民向けサッカー教室についてお答えください。

また、プロサッカーが主に利用する博多の森球技場、雁の巣球技場について、他の競技団体との利用調整も含め、利用状況についてもお答えください。

最後に、本市からの支援として、その他のプロスポーツに対して行っているものがあるとなれば、それを教えてください。

次に、プロを目指すような人材育成、将来を見越した子どもたちへの支援についてお尋ねいたします。

福岡県では県内の小中学生を対象に、将来のトップアスリートを育てる目的で個人の運動能力を開発、育成するタレント発掘事業に取り組んでいるようです。一方、本市では行っておりません。私は大変よい取り組みだと思っています。なぜ本市で行わないのか、教えてください。

それから、本市での小中高生のスポーツ活動の基本の場である学校の部活動に対する支援についても教えてください。特に専門性を高めるため平成30年度から部活動指導員を導入しましたが、配置の状況及び導入の効果についても教えてください。さらに、部活動補助指導者への影響についても教えてください。

次に、高校生に関連して、一つの例として、高校野球の夏の甲子園福岡県大会の決勝戦がなぜか本市では行われていません。本市では平和台球場の閉鎖以降、開催されていませ

ん。以前からの質問で、本市で決勝戦ができない理由として、野球場については基準は満たしている球場もあるものの、開催自体は主催者が交通の利便性等を含め総合的に判断すると答弁をいただいています。

そこで、改めてお尋ねします。

今後、決勝戦の開催可能性があると思っているのか、答弁を求めます。

次に、するスポーツの基本について質問いたします。

するスポーツは、気軽に楽しみ、参加できるものから始まります。そのためには市民に対してそれぞれの好みやレベルに合わせて選択できるような場や機会の提供が重要だと思っています。

そこで、体育館、グラウンドなどの施設の充実についてお尋ねいたします。

体育館、野球場、球技場などのグラウンドで、特に土曜日、日曜日、祝日に利用できないとの声をよく聞きます。スポーツ人口がふえている証拠の一つかと思います。

次に質問予定の総合体育館、市民体育館、各区体育館、公園、球技場のそれぞれの利用状況についてはここでは割愛させていただきます。

そこで、1つだけ質問いたします。総合体育館についてです。

総合体育館のオープンの前後で、他の施設との利用状況の比較を、メインアリーナとそれ以外で利用者数を教えてください。

以上で1回目の質問を終わり、次回以降の質問は自席にて行います。

437〇議長（阿部真之助） 下川市民局長。

438〇市民局長（下川祥二） スポーツ環境の充実に関する御質問にお答えいたします。

スポーツをする場や機会が身近にあると感じる市民の割合につきましては、平成 30 年度福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査において 58.8%となっております。

次に、ラグビーワールドカップの福岡開催の成果につきましては、レベルファイブスタジアムの 3 試合はいずれもほぼ満席となり、試合会場以外においても、J R 博多駅前のファンゾーンや市役所西側ふれあい広場を初め、市内各所で開催いたしました日本代表戦や決勝戦などのパブリックビューイングも多くの人でにぎわうなど、市民の皆様や国内外からの多くのファンに夢や感動をもたらすことができたのではないかと考えております。

また、試合会場への観戦客の交通輸送につきましても、周辺住民や観戦客の皆様の御協力により大きな渋滞や混乱も生じることなく、無事運営することができたと考えております。課題といたしましては、試合会場から徒歩によりお帰りになる方が予想以上に多かったため、ごく一部、生活道路への入り込みが発生し、警備員の増員により対応したことがございました。

次に、子どもたちの試合観戦につきましては、ラグビーワールドカップ 2019 福岡開催推進委員会が観戦チケット及び来場に必要バスを準備し、9 月 26 日のイタリア代表対カナダ代表戦と 10 月 2 日のフランス代表対アメリカ代表戦に市内の約 700 人を含む約 3,000 人の小中高生を招待し、観戦いただいております。福岡市立の学校では、小中学校は席田小学校の児童等 38 人に、ほか、福岡西陵高等学校の生徒等 328 人に、博多高等学園の生徒等 45 人に観戦いただいております。

次に、アビスパ福岡に関する市の人的支援といたしましては、係長級 1 名が出向してお

ります。また、直近3年間の委託料の決算額については、平成28年度8,200万円余、29年度8,400万円余、30年度8,500万円余となっております。業務委託の内容については、レベルファイブスタジアムでのスポーツ大会等のPR業務、市民応援デー実施業務、市民向けサッカー教室の業務となっております。

次に、平成30年度実施の業務委託のうち、市民応援デー実施業務委託につきまして、招待者数6,000人、事業費272万円余となっており、また、市民向けサッカー教室については事業費2,115万円余となっております。

次に、プロサッカー以外のプロスポーツ支援につきましては、福岡ソフトバンクホークスに対しては、ホームゲームの開催情報の広報支援をしております。また、プロバスケットボールチームのライジングゼファークオカに対しましては、ホームゲームの開催情報の広報支援及び体育館利用に関する調整について協力しております。

次に、福岡県タレント発掘事業につきましては、日本スポーツ振興センターや日本オリンピック委員会などの国の機関と協力しながら福岡県内に居住する児童や生徒を対象として実施されており、市内に居住する児童生徒も対象となっていることから、本市では実施しておりません。

次に、福岡市の施設での高校野球の決勝戦の開催につきましては、主催者から観客席の数や交通アクセスの観点から現状では開催は難しいと伺っております。

最後に、総合体育館の開館前後の各体育館における利用者数につきましては、平成29年度と30年度で比較いたしますと、市民体育館が29年度は全体で約36万7,000人であり、うちメインアリーナが約11万5,000人、その他が約25万2,000人、30年度は全

体で約 36 万 5,000 人であり、うちメインアリーナが約 10 万 8,000 人、その他が約 25 万 7,000 人となっております。地区体育館が 29 年度は全体で約 144 万 7,000 人、うちアリーナが約 46 万 2,000 人、その他が約 98 万 5,000 人、30 年度は全体で約 144 万 9,000 人、うちアリーナが約 43 万 9,000 人、その他が約 101 万人となっております。また、30 年度の総合体育館全体の利用者数は約 5 万人であり、うちメインアリーナが約 2 万人、その他が約 3 万人となっております。以上でございます。

439○議長（阿部真之助） 石橋住宅都市局長。

440○住宅都市局長（石橋正信） 博多の森球技場及び雁の巣レクリエーションセンターの球技場の利用状況についてでございますが、博多の森球技場は平成 30 年度は延べ 33 日利用されておりまして、その内訳は、サッカー Jリーグが 18 日、高校サッカーや天皇杯などのその他のサッカー大会が 9 日、ラグビートップリーグや高校ラグビーなどが 4 日、イベント利用などが 2 日となっております。また、雁の巣レクリエーションセンターの球技場は 6 面ございますが、そのうち 1 面をアビスパ福岡が練習場として使用しておりまして、残りの 5 面は市民大会や練習など、広く一般に利用されております。

なお、サッカー Jリーグのチームはライセンスの規程上、ホームスタジアム及びトップチームの練習場を確保する必要がありまして、そのためアビスパ福岡につきましても、博多の森球技場並びに雁の巣レクリエーションセンターの球技場の 1 面の利用を承認いたしているところでございます。以上でございます。

441○議長（阿部真之助） 星子教育長。

442○教育長（星子明夫） 学校の部活動への支援及び部活動指導員の現状についてお答えします。

中学校、高等学校の部活動については、生徒が九州大会や全国大会に参加する際、保護者が負担する経費である交通費と宿泊費の規定額を教育委員会が補助しております。

次に、部活動指導員の配置状況については、初めて導入した平成 30 年度に中学校 51 校に 64 名、高等学校 4 校に 4 名の合計 68 名を配置し、令和元年度は中学校 51 校に 69 名、高等学校 4 校に 4 名の合計 73 名を配置しております。

配置の効果は教育委員会が平成 31 年 4 月に校長を対象に実施した調査では、部活動指導員の専門的な指導により生徒に効果があったかの設問に肯定的に回答した学校が 98.2% であり、部活動指導員の配置によって生徒の技術向上が図られるなど、部活動の充実につながっていると考えております。また、文部科学省が平成 30 年 10 月に実施した調査では、福岡市における部活動顧問の指導日数が減少しており、教師が授業準備や子どもと向き合う時間に活用できたと考えております。

なお、部活動補助指導者はこれまでと同様に、部活動顧問の補助として生徒の技術力向上のために活用されております。以上です。

443○議長（阿部真之助） 今林ひであき議員。

444○21 番（今林ひであき） 2 問目です。

本市の 58%の方がスポーツする場や機会が身近にあると思っているとのこと。また、本市の基本計画では全ての市民が、さらに、振興計画では身近な地域でのスポーツ・レクリエーションの場を充実するとうたっています。その意味から、58%の数字はまだ少

ないような気がします。何をすれば、何に取り組めばもっとふえるのでしょうか。順次お尋ねしていきます。

まずは見るスポーツからです。

ラグビーワールドカップの成果について、会場は満員で、本市でも欧米などを中心に海外からの観光客が多く訪れました。おもてなしの取り組みについては、時間の都合上お尋ねしませんが、うまくいったとの話を聞いており、安心しております。その他、イベント民泊を実施した自治体もあるようです。

さまざまな取り組みにより全体的に成功と評価されることはうれしい限りです。ただ、気になるところがあります。学校観戦です。市の答弁では、学校観戦として約 3,000 名の子どもたちを招待したとのこと。しかし、市立小中学校の私のいう授業としての観戦はうまくいかなかったようです。なぜなら、市立に限っては席田小学校の 1 校のみで、中学校はなしとの残念な結果です。スタンド裏で観戦する子どもの姿は、3,000 人よりも多く見られました。組織立った服装から見ると、学校観戦のほか、スポーツ団体も多かったのではないかと思います。スポーツ団体の方々からはチケット購入で苦労されたという話を聞いております。この苦労した話は学校観戦のあり方として課題があった証拠だと思っています。

なぜ市立で観戦する学校数が少なかったのか、なぜうまくいかなかったのか、原因がわかれば教えてください。あわせて、世界一流を見る、この機会であった学校観戦について教育委員会はどのような認識を持っているのか、お尋ねいたします。

次に、県のタレント発掘事業に関して、将来の優秀な人材、隠れた人材の発掘を確保す

るためには、より身近に子どもとの接点がある市として県との連携が必要だと思っています。御所見をお伺いいたします。

次に、部活動指導員について、なぜかしら、うまい程度に各学校に1人程度の配置のようです。

そこで、中学校から複数配置の希望があった場合、どのように対応しているのか、教えてください。

次に、高校野球の決勝戦の開催可能性について、主催者側にうんと言わせるものとして、ソフトバンクの2軍が使っていた雁の巣球場を再整備すれば可能性があるのではないかと考えております。決勝戦の開催ができるよう、市の熱い思いに期待いたします。

次に、プロスポーツに対する課題です。

本市では一般的にプロスポーツに対しては、ホームゲームなどで開催情報の広報を支援しているとのことですが、プロサッカーに限っては、平成30年度決算は人的支援として1人の派遣、そのほかに委託事業として年間約8,500万円程度を支援しています。そのほかにも施設利用料の減免などもあると思います。他のプロスポーツも福岡の市民チームを標榜していますが、企業等の支援を受けながら自前で活動しています。さらに、プロでもないラグビーのコカ・コーラでも、今回のワールドカップを契機に、ラグビーフェスタの一環として無料観戦をみずから実施しております。プロでもないチームがみずからスポーツの普及活動に取り組んでいる中、プロがそのようなところまで支援を受けていれば、選手の自主性だけでなく、それを指導する関係者の自主性までだめになるような気がします。誘致から既に24年、市民の中には誘致した経緯が風化している方もいらっしゃる

います。頑張ってもらいたいです。

次に、スポーツする場の提供、施設の利用状況についてお尋ねいたします。

総合体育館については、オープン後、駐車場の課題を除けば、おおむね好評との評価を受けていると思います。一方、市民体育館も総合体育館のオープン後も利用が多い状況です。

そこで、市民体育館の設置経緯と築年数についてお尋ねいたします。また、市民体育館の役割についても教えてください。

次に、グラウンドの充実についてお尋ねいたします。

まずは雁の巣レクリエーションセンターについて、利用者からの要望が多いものとして、トイレの整備、夏のグラウンド水まき、駐車場の整備などが挙げられます。これらの課題についての御所見をお伺いいたします。

次に、ラグビーワールドカップ福岡開催を踏まえて1つお願いがあります。見るからトップレベルまでに至る、するスポーツへの円滑な循環のためにも、ぜひともこの国際大会のレガシーになるものがあればよいと思っています。レガシーの一つの例として、例えば、市のラグビー協会などが中心となって人工芝の整備などの要望をされています。近年の傾向として、人工芝の球技場が多く見られるようになっていきます。例えば、県営の春日公園、東福岡高校のグラウンド、また、今後、修猷館のグラウンドでも整備される予定と聞いております。

そこで、お尋ねいたします。

人工芝と天然芝では特性としてどのような違いがあるのか、お尋ねいたします。

では、どの場所にということに関連してお尋ねいたします。

舞鶴公園には球技場と平和台陸上競技場というグラウンドがあります。この2つは、平成3年に取りまとめられた舞鶴城址将来構想において移転施設として位置づけられています。

そこで、お尋ねいたします。

舞鶴公園の球技場と平和台陸上競技場の設立経緯と利用状況についてお尋ねいたします。また、平成26年に策定されたセントラルパーク構想においては両施設はどのように位置づけられているのか、お尋ねいたします。

以上で2問目を終わります。

445〇議長（阿部真之助） 星子教育長。

446〇教育長（星子明夫） 小中学校のスポーツ観戦についてお答えします。

ラグビーワールドカップの開催については、平成30年6月から学校への周知の仕方などについて教育委員会と市民局とで協議を行い、30年10月に観戦に向けての意向調査、31年4月に観戦招待の募集を各学校に通知し、学校長が観戦を判断するものとしておりました。小中学校からの観戦申し込みが少なかった理由については、対象となる試合が平日の夕刻に行われ、児童生徒の帰宅時間が夜間となることから、安全を確保するため保護者や地域の協力が必要であること、運動会、体育会の練習や定期考査の期間と重なることなどの理由からと聞いております。教育委員会としましては、児童生徒が世界トップレベルの競技大会を観戦することは、さまざまな競技への興味、関心を広げ、日常的に運動に親しむきっかけとなり、有意義であると認識しており、今回の課題を踏まえ、より多くの児

童生徒が観戦できるよう取り組んでまいります。

次に、部活動指導員の複数配置を希望する学校への対応についてお答えします。

複数配置を希望する学校を対象に、部活動を担当する教員の専門性や部活動補助指導者のかかわりの状況などについて聞き取りを行い、全市的な観点から複数配置を行う学校を決定しております。

なお、原則として部活動指導員は学校が面接などを通して決定しておりますが、学校での人材確保が困難な場合は、教育委員会が福岡市スポーツ協会や専門学校と連携し、学校に対して人材を紹介しております。以上です。

447〇議長（阿部真之助） 下川市民局長。

448〇市民局長（下川祥二） スポーツ環境の充実に関する御質問にお答えいたします。

福岡県が実施するタレント発掘事業への協力につきましては、現在、市内で開催される体力・運動能力測定会当日の会場や測定員の確保について協力しております。

次に、市民体育館につきましては、昭和47年に市制80周年の記念事業として建設され、現在、築47年経過しております。市民体育館におきましては、全市レベル以上の大規模大会を初めとした各種スポーツ大会が開催され、さまざまなスポーツ活動の拠点としての役割を果たしております。以上でございます。

449〇議長（阿部真之助） 石橋住宅都市局長。

450〇住宅都市局長（石橋正信） 雁の巣レクリエーションセンターの利用者からの要望につきましては、トイレの改修など一部対応してきたところでございますが、その他につきましては必要性や緊急性など、総合的な観点から今後検討してまいります。

次に、球技場における人工芝と天然芝の違いにつきましては、人工芝は天然芝と比べ、雨天時にも使用が可能で、メンテナンスも容易であるという特性がある一方で、夏場に表面が高温になりやすく、整備費用も天然芝に比べまして高額になるなどの課題がございます。

次に、舞鶴公園の球技場及び平和台陸上競技場の設立経緯、利用状況並びにセントラルパーク構想における位置づけにつきましては、昭和23年に開催されました国民体育大会の会場として整備され、現在も福岡国際マラソンや市民総合スポーツ大会、サッカーやラグビーの試合や練習など、市民に広く利用されております。また、セントラルパーク構想では、球技場は公園の段階的整備とあわせて施設利用者への影響に留意しながら段階的に移転しますとしておりまして、平和台陸上競技場は少なくともスタンドが使用に耐えられなくなるまで供用することとし、将来のあり方については今後十分に検討を行いますといたしております。以上でございます。

451〇議長（阿部真之助） 今林ひであき議員。

452〇21番（今林ひであき） 3問目に行きます。

ラグビーワールドカップの授業観戦について指摘します。

学校のスポーツ観戦については、教育委員会として有意義な取り組みであるとの認識でした。もっと多くの市立小中学校で今後の大会で学校観戦ができるよう努力すべきだと指摘しておきます。

次に、子どもたちの育成について、本市の教育委員会は子どもの将来の可能性を引き出すため、県のタレント発掘事業に場の提供や人的協力だけでなく、もっと直接的に関与し

ていくことを希望いたします。

次に、プロスポーツに対する支援です。

これからはアビスパ福岡に対する叱咤激励と思って聞いてください。支援する企業を集められず、自前での運営が成り立たないとはプロとして失格です。プロという自覚があるなら、市民に迷惑をかけることなく、自立してやっていくべきです。そして、逆に市民に還元してほしいものです。しかし、成績は低迷しております。誘致した経緯はありますが、しかし、ここに至ってはある程度の結果は求められると思います。その意味で、プロサッカーへの支援を継続するに当たり、クラブ関係者、選手に意識改革を求めるなど、今後改善すべき点があることを指摘しておきます。アビスパ福岡しっかりしろ、今のままでだめだと激励したいです。

いずれにせよ、頑張っ結果を残すことができれば税金投入への市民の理解も得やすいし、強くなれば支援企業も見つかると思います。そうなってほしいと思います。

次に、プロバスケットに対しても総合体育館に係る利用調整でも協力しているとのことでした。総合体育館オープン当時、他の競技団体が利用を希望したにもかかわらず、先にバスケットのプロの試合日程が組まれており、利用できなかったことがありました。利用調整で本来の目的である市民団体の利用に影響が出ては困ります。プロスポーツを楽しみにしている市民もたくさんおられます。正々堂々とすばらしい試合を見せて、感動を与えてほしいと願うばかりです。

次に、市民体育館についてです。

我が会派の平畑議員に対する答弁で、市民体育館の代替として総合体育館を整備した

が、メインアリーナについては利用できる限り使用するとのお返事をいただき、一安心しました。ただ、それ以外は廃止の方向性という話が気になります。メインアリーナ以外の利用者については、総合体育館オープン前後では市民体育館では25万2,000人から25万7,000人、地区体育館でも98万5,000人から101万人となっており、横ばいというよりも、むしろふえており、減ってはおりません。現在の利用状況から見て、市民体育館は現施設が使えなくなったら、メインアリーナも含めて移転してでも継続してほしいと要望しておきます。

次に、グラウンドの充実についてです。

まずは雁の巣レクリエーションセンターです。

トイレの課題については、優先的に取り組んでいただき、感謝申し上げます。また、今回、隣接地に整備予定であるヘリポートのトイレが使用できるようになると聞いており、さらなる改善ができ、うれしく思っています。

次に、夏場の水まきの課題については、奥にあるグラウンドまで水道の配管を何百メートルも延長することは費用対効果の面からも現実的ではありません。散水ができる自動車などを使って散水ができればよいと思います。御検討をお願いいたします。

次に、人工芝について、メリット、デメリットの両方があることは理解いたします。しかし、特筆すべきことは、天然芝は雨では使えず、人工芝は雨でも使えるということです。球技場の利用率も高い中、屋外で天候に左右されずに使える、人工芝のグラウンドであれば、いつでも利用ができます。より効率的な施設運営にも寄与するのではないかと考えております。

その関連で述べます。舞鶴公園の球技場と平和台陸上競技場は、設立経緯からもわかるように、立派なレガシーであります。このレガシーを生かし、これに今回のラグビーのレガシーを注入できないかと思っています。つまり平和台陸上競技場のあり方を考える場合に、人工芝を検討の一つに入れてもらえないでしょうか。また、舞鶴公園球技場の将来の移転先は後々考えるとなっておりますが、しかし、よい場所と思える場所があったら早期の移転も検討してみてもはどうでしょうか。その際に人工芝も検討してもらえないかと思っています。よろしくお願いいたします。

いろいろと要望させていただきましたが、最後の質問として、今後のスポーツ環境の充実をお願いするに当たり御所見をお伺いして、私の質問を終わります。

453〇議長（阿部真之助） 下川市民局長。

454〇市民局長（下川祥二） スポーツの振興を図る上で、スポーツをする場や機会の充実は大変重要であると考えております。本市といたしましては、これまでもソフト面として福岡マラソンの開催や各体育館における各種スポーツ教室など、市民が参加できる事業を実施いたしております。また、ハード面では、今津野球場や総合体育館を新たに供用開始するとともに、地区体育館の改修を行うなど、施設の充実にも取り組んでいるところでございます。今後もソフト、ハード両面から、市民の誰もが身近なところで気軽にスポーツに親しむことができる環境の充実に積極的に取り組んでまいります。以上でございます。